

H29地域協働研究（ステージⅠ）

H29-Ⅰ-08「地域包括ケアシステムに対応した厚生事業の展開」

課題提案者：岩手県厚生農業協同組合連合会

研究代表者：社会福祉学部 狩野 徹

研究チーム員：藤尾東泉、村田進（岩手県厚生農業協同組合連合会）

<要 旨>

岩手県厚生連の既存事業、特に、老人保健施設事業を補完・拡充する事業を検討し、国の方針でもある地域包括ケアシステムに対応できる介護老人保健施設事業と相乗効果が見込める事業の検討に取り組むにあたり、老人保健施設利用者の家族に対して質問紙調査を行い、入所理由、在宅復帰の意向、在宅復帰に必要なサービス等、今後期待するサービスなどを捉え、今後の事業展開の提案に結びつける。

1 研究の概要（背景・目的等）

研究の目的

岩手県厚生連における既存事業、特に老人保健施設事業を補完・拡充する事業を検討し、国の方針でもある地域包括ケアシステムに対応できる事業研究により、既存事業との相乗効果が事業の検討に取り組むにあたり、同一構内にある空きスペース・空間の活用を見込んだ今後の事業展開の提案を行うことを目的とする。

2 研究の内容（方法・経過等）

1) 研究の手法

質問紙調査により、利用者の家族のニーズを把握し、今後の事業構築にあたり、調査研究結果を元にして知見の提供、今後の方向性を提言する。

2) 調査期間：平成29年11月～平成30年1月

3) 調査対象者：老健事業利用者の家族

4) 調査数および回収率：事業利用者の家族70人、有効回答59人（回収率84.3%）

3 これまで得られた研究の成果

1) 入所について

ケアマネジャーや相談員などから老健施設を紹介され、老健施設を検討した結果、岩手県厚生連の老人保健施設のハートフルもりおかを選んでいる。選ばれた理由では、運営母体の信頼性や実際に見学し「個室などの施設環境」が非常に高い割合で選ばれている。サービスの内容も半数以上で選ばれていることから、ハード面、ソフト面共

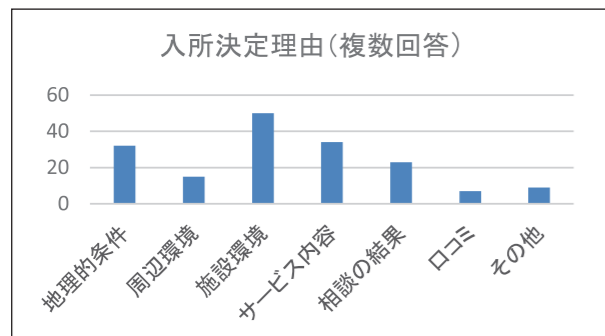


図1 入所理由

に高く評価されている。その中で、相談員の対応で選ばれていることも注目できる。

2) 在宅復帰について

老人保健施設としての役割は理解しつつも、在宅復帰は難しいのが現状である。介護する家族の問題と在宅の条件の問題がうかがわれ、住宅改修・福祉用具の導入が必要な条件として多くあげられ、次いで通所サービスやショートステイが必要とされている。夏場は在宅に戻っているケースも見られ、完全自宅復帰は難しいものの、在宅を中心に、ショートステイなど在宅サービスを使いながら、入所退所を繰り返すのが現実的状况であろう。重度化を見越して一部を機能転換あるいは小規模特養か小規模多機能拠点などの併設なども検討する必要がある。また、近くにケアハウス（サービス付き高齢者向け住宅を含む）や生活支援ハウスなどの居住を主目的とした施設を併設し、在宅サービスを提供することも考えられる。この点、利用者の困り込みと判断されないような工夫が必要である。

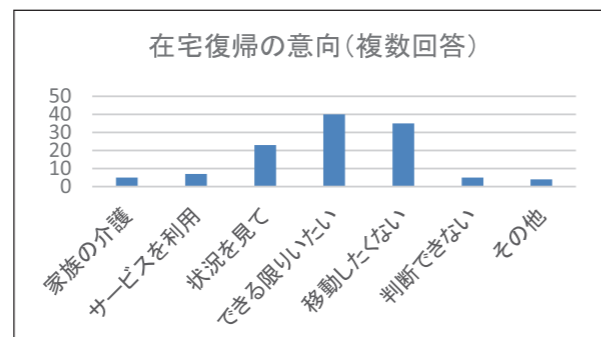


図2 在宅復帰について

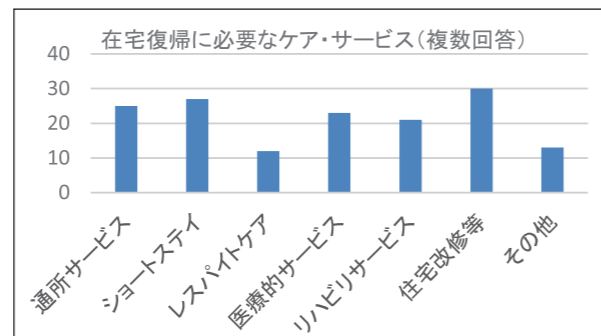


図3 在宅復帰に必要なケア・サービスについて

3) 高齢者向けサービスについて

現在入所している利用者向けだけ、というのではなく、あったらよいと思うサービスで多いのは、医療サービス（41人：70%）であるが（第1グループとする）、生活支援に係るサービス（第2グループ）で食事サービス（27人：46%）、入浴サービス（26人：44%）が続いている。次に多いグループとして、認知症カフェや健康寿命を延ばすサービスなど新しいものがあげられている（第3グループ）。

「あったら良いと思う」サービスの割合が高いものに、食事提供サービスと認知症カフェのような地域で気軽に集まれる場所がある。この点も踏まえると、第1グループ、第2グループは既に提供している内容であり、継続して実施していくことが必要であるが、第3グループのようなサービスは、今後需要の増加が見込まれるため、事業展開として検討してみることも必要である。気軽に集まれ地域で会食できるような場を提供することも、JAの厚生連として必要なのではないか。施設の提供サービスの中で、「食事」の質の良さが高く評価されていることもあり、経営母体の特徴を活かすことが重要である。

配食サービスは一定の提供が整備されていて、会食サービスと相談事業、介護教室などをあわせたものが（認知症カフェ、シルバーカフェ）、ハートフルもりおかの本体を良く知ってもらうことにも繋がると思われる。また、被災地の状況を見ると、日常的につながりが深いことが、施設の「事業継続性」と「地域貢献」に繋がることがわかっていて、検討をすることを希望する。

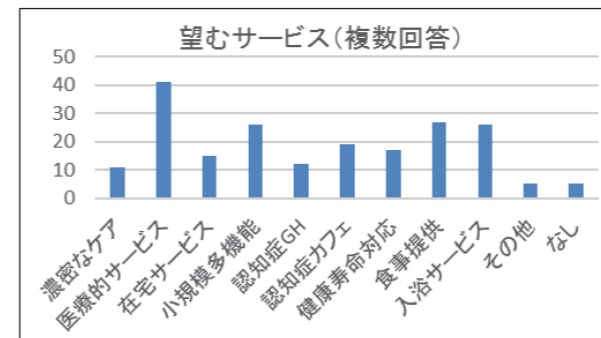


図3 望む（あったら良い）サービス

4) 介護問題についての意識

施設を利用している家族であるため、介護施設の増設を一番望んでいる（44人：75%）が、「身近な相談の充実」（42人：71%）「家族介護している人向けの日中の預かり」（41人：70%）もかなり高い割合である。在宅復帰などを考えると家族で介護することが必要になるが、その支援・相談、一時的支援が求められていることがわかる。現在の利用者の相談だけでなく、在宅介護者のサービス提供だけでなく、積極的な相談や支援が求められていると思われる。

5) 期待すること

医療サービス、生活支援サービスなどサービス提供が多くなっているが半数に届いていない。また、職員の質の向上は14人（24%）で、現状で十分と評価されているものと判断できる。

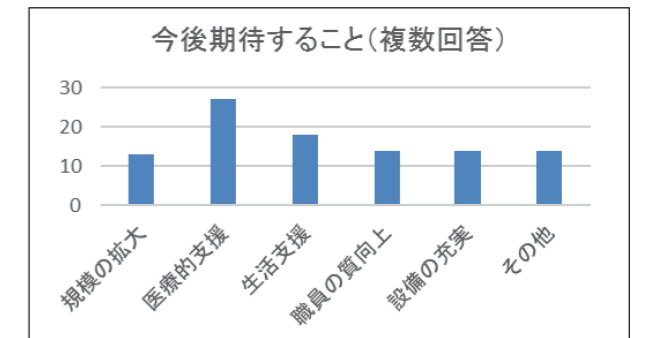


図5 今後期待すること

6) 介護問題について

介護の問題、施設の問題についての意見は、介護保険制度の問題、介護についての意識の問題など国全体で考えるべき問題も含まれている。職員不足についての指摘・不安があげられ、今後、良いスタッフを継続的に確保することが望まれている。また、制度のことは理解しているものの、継続して利用ができることを望む声も多くある。

7) 厚生連（ハートフルもりおか）への意見

ハートフルもりおかに対する意見は、感謝の内容が多く、施設長の理念に共感するケースも見られ、ケア環境（ハードソフト両面を含むもの）のレベルの高さが評価されている。個別の希望はいくつかあげられているが、どの内容についても個別対応ができるものと考えられる。

4 今後の具体的な展開

今回の調査結果の概要を受けて、現中期計画並びに次期中期計画への反映と、介護保険制度改正への対応、並びに行政における今次第7期介護保険事業計画に基づく在宅系サービスを含めた介護事業の構築について、事業採算性確保の観点から、岩手県厚生連と岩手県立大学が継続した協議・検討を行うことが必要である。

5 その他（参考文献・謝辞等）

調査に協力していただいた利用者のご家族の方に感謝いたします。